

## 2025 年度 第 2 回 一般社団法人日本疫学会理事会 議事録

|     |                                                                                                                                                                                                                        |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日時  | 2025 年(令和 7 年) 5 月 29 日(木) 9:00-11:30                                                                                                                                                                                  |
| 場 所 | Web 開催                                                                                                                                                                                                                 |
| 出席者 | (順不同、敬称略)<br>理事: 玉腰暁子(理事長)、井上真奈美(副理事長)、関根道和(副理事長)、<br>岡村智教、三宅吉博、片野田耕太、村上義孝、有馬久富、福島若葉、<br>近藤尚己、郡山千早、中田由夫、川崎良、後藤温、三浦克之<br>監事: 和田恵子<br>選挙管理委員長: 福田吉治<br>第 35 回学術総会会長: 安田誠史<br>第 36 回学術総会会長: 金子聰<br>学会事務局: 菊池宏幸(事務局長)、糟谷里美 |
| 欠 席 | 曾根博仁、小橋元、井上茂、寶澤篤、横山徹爾                                                                                                                                                                                                  |

- 理事会に先立ち、玉腰理事長より、理事・監事 16 名の出席により理事会が成立していることが確認された。

### < 協議事項 >

- 2025 年度 一般社団法人日本疫学会 臨時理事会 議事録(案)は承認された。
- 選挙管理委員会の福田委員長より、2025 年度代議員選挙のスケジュールおよび代議員・選出理事の定数について説明があり、以下のとおり定数が承認された。
  - 代議員定数: 北海道・東北 22 名、関東甲信越 38 名、東京 54 名、  
中部 26 名、近畿 40 名、中国・四国 14 名、九州・沖縄 18 名
  - 選出理事定数: 北海道・東北 2 名、関東甲信越 3 名、東京 3 名、中部 2 名、  
近畿 3 名、中国・四国 1 名、九州・沖縄 1 名
- 学術委員会の川崎委員長より、疫学研究グループの継続および新規グループの設置について説明があり、以下のとおり承認された。(敬称略)
  - [継続] 放射線疫学推進グループ(代表: 小笹晃太郎)
  - [新規] 持続可能な UHC と公平な制度設計に寄与するデータサイエンス研究グループ(代表: 伊藤ゆり)
- 国際化推進委員会の郡山委員長より、第 36 回日本疫学会学術総会トラベルグラントについて以下の提案があり、検討が行われた結果、海外在住の日本人若手研究者への支援の必要性が高いことから、外国人向けのトラベルグラントとは別枠で日本人向けのトラベルグラントを新設することが承認された。なお、当該ト

ラベルグラントの運用は、現時点では国際化推進委員会が行なうが、次年度以降の管轄については今後検討していくことになった。

現在のトラベルグラントは海外在住の外国人が対象となっているが、海外で活躍している日本人若手研究は自由に使える研究費が少なく、日本疫学会学術総会への参加が難しい状況にあることから、日本人若手研究者（海外留学中など）のためのトラベルグラントを新たに設置する。またその人数と助成額については、これまでの外国人対象のトラベルグラント（7名、一人10万円）とのバランス等を考慮して、今後決定し予算化していく。

5. 動画作成タスクフォースの福島 TF 長より、動画作成の進捗状況の説明があり、①動画用のキャラクターおよび②動画コンテンツの理事会確認のタイミングについて提案があり、①は承認され、②は動画作成 TF 長に一任されることになった。
6. 若手活躍推進タスクフォースの中田 TF 長より、同タスクフォースの設置の経緯について説明があり、その設置と指名・公募による以下のメンバーでの活動の開始が承認された。なお、2026 年 1 月までに、若手活躍の場を確保する方策をまとめ、理事会での承認を得る予定であることが補足された。

|         |                                                       |
|---------|-------------------------------------------------------|
| TF 長    | 中田由夫                                                  |
| 副 TF 長  | 井上真奈美                                                 |
| TF メンバー | 長谷田真帆、天笠志保、古川拓馬、永吉真子、森島敏隆、<br>菊池宏幸、鵜飼知嵩、村元勤、大野富美、佐藤倫広 |
7. 総務委員会の菊池委員長より、事務局職員の給与改定について提案があり、承認された。
8. 第 36 回日本疫学会学術総会の金子会長より、国際疫学会と合同開催であることから、参加費を例年より値上げする方向である旨の説明があり、その妥当性について確認が行なわれ、理事会での賛同が得られた。

#### <報告事項>

1. 玉腰理事長より次の報告があった。
  - 日本人類遺伝学会 GMRC 制度の廃止について（理事会メール審議にて承認済み）
  - 福島県県民健康調査の調査情報提供に関する審査会に関する委員の推薦について（栗

山進一先生と郡山千早先生に継続でのご就任を内諾済み)

- 福島県県民健康調査に係る甲状腺評価部会員の推薦について（山本精一郎先生に継続でのご就任を内諾済み）

2. 各委員会等から次の報告があった。

- 1) 疫学リソース利用促進委員会の岡村委員長より、医療情報データベース、日本薬データベースを用いる研究のための Outcome Definition Repository (ODR) の活用に関する報告があった。

また、既存疫学研究データ資源化・共有・活用ワーキンググループの三宅 WG 長より、「日本の疫学研究データベース（仮称）」の入力項目を決定した旨の報告があった

さらに、リンケージ基盤推進ワーキンググループ（WG 長：古元重和先生）では、元若井建志 WG 長からのこれまでの情報を共有した上で、活動を進めていくとの説明があった。

- 2) 学会等連携推進委員会の曾根委員長に代わり片野田委員より、現在の活動状況および今後の活動について次の報告があった。2025 年 7 月には第 57 回日本動脈硬化化学会学術集会にて共催シンポジウムを、9 月には第 72 回日本栄養改善学会学術総会にて合同シンポジウムの開催を予定している。今後も他学会との共催企画や他学会や団体からの教育講演等の依頼に対し、随時積極的に対応していく。

次に、禁煙推進学術ネットワーク連絡 WG の片野田 WG 長より、ネットワークの定例会議等の報告があった。①受動喫煙防止法制化に向けて、改正健康増進法の見直しに関する厚生労働省への要望書を準備している。②第 7 回禁煙推進学術ネットワーク学術会議が、2025 年 10 月 4 日（於：全国家電会館）に開催される。テーマは「DX で禁煙を加速しよう ― 健康増進を推進するデジタルテクノロジー」。③第 35 回日本疫学会学術総会（於：高知）でのシンポジウムを開催予定である。テーマは「疫学と法律 ― 疫学は法規制や訴訟にどう貢献できるか」

- 3) 多様性（ダイバーシティ）促進委員会の村上委員長より、これまでに行なった会員データの重慶結果に基づき、今後外国人等も対象に託児システムについて検討していきたい、との報告があった。

- 4) 広報委員会の有馬委員長より、ニュースレター No. 65（編集担当：大河原眞先生）が 2025 年 4 月 15 日に発行され、10 月には No. 66（編集担当：村上慶子先

生)が発行予定、また一般の方からの問い合わせへの対応を行なっていることが報告された。

次に、疫学リテラシー普及促進ワーキンググループの福島 WG 長より、日本疫学会ホームページの一般向けコーナー「疫学用語の基礎知識」を編集作業中であり、今後掲載用図表等の切り出しについて朝倉書店に依頼するとともに、サイトのプライバシーポリシーのページの作成を進めることが報告された。

さらに、メディア連携ワーキンググループの近藤尚己 WG 長より、WG メンバーの役割分担を決定し、今後の活動について検討している旨の報告があった。

5) JE 編集委員会の片野田委員長より、次の報告があった。

- COPE (Committee on Publication Ethics)の再申請を進めている。
- 中所得国の掲載料補助を見送ることになった。
- インパクトファクター：3.7 (2023) (3.5 for 5-years)
- 投稿規定改訂 (Preprint についての記述を追加)を行なった。
- 特集号の整理を行なっている。
- 投稿数は 2024 年 12 月末で 498。2023 年が 377 だったので今年は大幅に上回った。(2019 年 366、2020 年 635、2021 年 513、2022 年 368)。中国、日本、台湾、韓国、エチオピア、米国の順。2025 年は 5/17 現在投稿数 240 (520/年くらいのペース)。GBD、バイオバンク系の投稿が多いのでスコープでないことを HP に記載検討。
- 2024 年採択率は 2024 年末で 9% (査読有 29%)。やや出版記事数の在庫が減りつつあるため掲載数を 7 本→6 本程度に減らした。
- 国際情報発信 (2024 年度まで科研費)：JE 掲載論文の PR 強化を行なった。
  - ①2022 年 10 月 HP リニューアル、その後編集室メンバーで順調に運用している。
  - ②2022 年 9 月に X (旧 Twitter) 開始、661 フォロアー (2025 年 5 月 19 日現在)。Social Dog という予約投稿システム (年 18,231 円) を使用。年末年始に Thank You Authors Campaign 実施、2024 年出版論文を一つずつポスト。
  - ③オセアニア地域のプレゼンスを高める。2025 年 7 月 Australasian Epidemiological Association Annual Scientific Meeting @Hobart, Tasmania で Meet the Editors セッションの参加依頼を受けた。
- 2025/7/16-18 オーストラリア・タスマニア州・ホバートにおいて、「Meet the Editors セッション」に参加予定。

6) 国際化推進委員会の郡山委員長より、次の報告がなされた。①第 36 回日本疫学会学術総会 (長崎) において日韓台シンポジウムを企画。(テーマ：Infection

and Cancer: Risks, Mechanisms, and Prevention) ②第 36 回日本疫学会学術集会：委員会企画シンポジウムを開催予定。(テーマ(仮)：Planetary Health Initiatives: Activities in Different Epidemiological Fields)

- 7) 疫学専門家委員会の井上茂委員長に代わり中田資格審査 WG 長より、次の活動報告があった。

①資格審査ワーキンググループ：2025 年のスケジュールの決定、申請要項の記載の追加、更新申請対象者への周知、ホームページの更新などを行なった。  
②認定試験ワーキンググループ：2025 年 2 月 14 日認定筆記試験を実施。その後 WG 会議にて 2026 年認定試験の基本方針、作業手順、役割分担を決定した。  
③疫学専門家タスクフォース：TF 会議にて、次の対策を順次行っていくことになった。(1) 研究費申請における利点の確保。(2) 疫学専門家資格取得者の背景を調査し、資格取得の促進を図っていく。(3) 日本公衆衛生学会にて広報を行なう。(4) 日本疫学会のホームページを利用し、疫学専門家の PR を行なう。

- 8) 学術委員会 疫学教育推進ワーキンググループの後藤 WG 長より、次の報告があった。①第 35 回日本疫学会学術総会におけるプレセミナー2025 (2025 年 2 月 12 日) は、今回初めての試みとして、英語によるプレセミナー企画も実施。②疫学サマーセミナーは、2025 年 8 月 24 日 (日) @大阪大学 中之島センターにて、講師に北村哲久先生を迎え、「論文アクセプトへの実践ガイド：四大ジャーナルとの闘いから学ぶ(仮題)」を開催する予定。開催形態は、現地および当時配信。③第 36 回日本疫学会学術総会@出島メッセ長崎においてプレセミナー2026 を実施予定 (2025 年 1 月 28 日)。開催形態は、現地および後日オンデマンド配信。

- 9) COI 委員会の三浦委員長より、日本疫学会役員等の COI 状態の自己申告の提出(電子入力)を依頼予定である旨の説明があった。

- 10) 選挙規定検討委員会の三浦委員長より、次の報告がなされた。①選挙規定が改訂され (2025. 3. 17)、2025 年度代議員選挙より、代議員の立候補年齢の上限を 62 歳とする形で現在選挙実施中である。②2025 年度の選挙結果を踏まえ、今後代議員の都道府県格差や男女差について、分析を行なう予定である。

3. 第 35 回日本疫学会学術総会の安田会長より、次の報告があった。

- 開催概要：①テーマ：レガシーに立脚する疫学研究のイノベーション ②会期：2025年2月12日（水）～14日（金）／オンデマンド配信（2025年3月6日～5月15日）、③会場：高知市文化プラザかるぽーと
- 一般演題：①合計演題数 354 演題（口演 50、示説 304 演題）（うち 優秀演題賞候補 5 題、トラベルグラント 7 題）
- セミナー、シンポジウム等

【2月12日（水）】①プレセミナー企画1「Introduction to systematic review and meta-analysis workshop (in English)」②プレセミナー企画2 Journal of Epidemiology 編集委員会企画「美しいグラフィカル・アブストラクトを作る Creating a stunning graphical abstract」③プレセミナー企画3「貴方の疫学、拡張しませんか？」④プレセミナー企画4「復元可能性 (recoverability) から捉える疫学研究で使える欠測データ解析 ― パッケージ任せの欠測補完の一步先へ ―」

【2月13日（木）】①会長講演「大規模疫学研究と地域の大学」②メインシンポジウム「日本の大規模コホート研究の歩みと展望」③シンポジウム1 疫学研究推進グループ「出生コホートネットワーク」企画シンポジウム「わが国の地域出生コホートの現況と今後の展望」④シンポジウム2 国際化推進委員会企画「International Trends in Epidemiological Research toward Planetary Health」⑤シンポジウム3 学会等連携推進委員会企画シンポジウム「疫学研究と臨床を含む現場との連携」⑥サテライトセミナー1 国際化推進委員会企画「キャリア形成と海外留学を考える ― ミートザエキスパート企画」⑦サテライトセミナー2 国際化推進委員会企画「Applications of big data in cohort and consortia studies」

【2月14日（金）】①特別講演「遺伝統計学の世界へようこそ」②シンポジウム4 学術委員会企画シンポジウム「疫学研究と地域・社会への実装」③シンポジウム5 学会等連携推進委員会 禁煙推進学術ネットワーク WG 企画シンポジウム「疫学と法律 ― 疫学は法規制や訴訟にどう貢献できるか」③シンポジウム6 AMED 協賛シンポジウム「デジタルヘルスを活用したヘルスケアの社会実装 ― 成果と課題 ―」

- その他のプログラム

【2月12日（水）】第30回疫学の未来を語る若手の集い

【2月13日（木）】奨励賞受賞者講演

- 参加者数：【総計】1,140名 【現地参加者】1,094名 【オンデマンドでの学術参加者】46名 【プレセミナー参加者】1,459名（一般1,037名、学生422名）

- 協賛：広告 5 件、展示 13 件、寄付 1 件（高知大学医学部医学科同窓会）、特別協力 1 件（高知県）
- 収支決算：収入 25,260,878 円 支出 20,685,720 円 差額 4,575,158 円

4. 第 36 回日本疫学会学術総会の準備状況について、金子会長より次の説明があった。

- ①開催日時：2026 年 1 月 28 日(水)～ 30 日(金)
- ②テーマ：Epidemiology and Global Issues：Addressing Diversity, Complexity, and Inclusion
- ②会場：出島メッセ長崎
- ③開催形態：現地開催（一部主要行事オンデマンド配信予定）
- ④運営会社：株式会社コンベンションリンケージ
- ⑤ホームページ開設：<https://joint-jea-ieawpr2026.jp/> ※海外からの参加者向け（入国に際し査証が必要な参加者向けのサイトも準備）
- ⑦協賛募集：ランチョンセミナー、附設展示、講演集広告、バナー広告、寄付金
- ⑧託児所委託：シッターサービス・ナナ合同会社（予定）
- ⑨演題募集の予告・準備：募集開始は 5 月末から 6 月初めを予定。海外からの参加者、発表者がいる事から、特に海外からの参加者の発表演題の確定を急ぎたい
- ⑩Travel Grants（海外会員の学術総会参加費補助）募集予定：JEA トラベルグラント、国際疫学会西大西洋地域からのトラベルグラント
- ⑪情報交換会：出島メッセ長崎にて開催（長崎ならではの出し物を準備中）
- ⑫企画案：特別講演、大会長講演、メインシンポジウム、委員会企画等、日韓台シンポジウム、指導医講習会（社会医学系専門医協会関連）、プレセミナー2026

5. 学会事務局活動および庶務について、菊池事務局長より次の報告があった。

- 1) 学会事務局活動：①入会・退会手続き、会員へメール配信、会計処理（各種支払い、謝金の源泉税納付、会計入力）、会費入金処理等 ②理事長ミーティング補助 ③委員会等の活動補助（委員委嘱状の送付）、JE 編集委員会：編集補助職員勤務管理・給与支払い、掲載料・別刷作成料の請求等、科研費実績報告書の提出、広報委員会：ニュースレターNo. 65 編集補助（4/15 発行）ほか ④第 35 回学術総会開催後の対応：受講票の送付、謝金に係る源泉税の納付 ⑤疫学専門家認定制度：認定証の作成と発送 ⑥疫学教育推進 WG プレセミナー（アンケート集計） ⑧第 2 回理事会、学術総会引継ぎ開催準備 ⑨代議員選挙の準備 ⑬ホームページの更新：ニュースレター掲載、奨励賞推薦の募集掲載、事務局からのお知らせ、関連団体からのお知らせ ⑭関連団体への対応（日本医学会・日本医学会連合、社会医学系専門医協会ほか） ⑮アンケート回答：(株)ユニバーサル社/CMC 学会資料セ

シー、日本医学会分科会

2) 庶務報告：①会員数（2025 年 5 月 1 日現在）名誉会員：34 名、代議員：235 名、普通会员：2,428 名（合計：2,697 名）②年会費納入状況（2025 年 5 月 26 日現在）2025 年度年会費の納入義務のある会員：2,647 名、5 月 19 日までの会費納入完了者：1,722 名（65.1%）

以上